

委託事業実施内容報告書

平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 特定非営利活動法人シェイクハンズ

- 1. 事業名称** 愛知県尾張北部等、外国人散在地域のネットワークによる日本語教育の推進
～生活者としての外国人支援～
- 2. 事業の目的** 尾張北部地域の日本語教育に関わる団体がネットワークを結び、日本語教育の拡充を図ってきたが、よりいっそう強く柔軟性を目指し、ライフステージに合わせた日本語教育・地域課題解決の場(地域日本語教室)を協働開催する。
また、その経緯や成果を住民に伝える場を設け、多文化共生社会づくりの重要性を広く住民に啓蒙する。
- 3. 事業内容の概要**
- 取組1: 尾張北部地域において、日本語教室や外国人支援に関わる複数機関で、連絡協議会を設置し、ネットワークの強化を図る。
- 取組2: 外国人住民のライフステージに即した日本語支援や、地域課題解決の為に「生活者としての生活者としての外国人のための日本語教室」を、カリキュラム案に沿い、3市2町で協働開催する。
- 取組3: 公開シンポジウムを開催し今回の取組を検証すると共に、住民に多文化共生社会づくりを広く呼びかける。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年 6月17日 18:00～ 21:00	3	寺子屋シェイク ハンズ	米勢治子、土井佳彦、 川島紀之、小椋好和、 栗木梨衣、早瀬裕子、 大橋充人、松本里美	1. 自己紹介 2. 事業の趣旨、目的説明 3. 事業 内容の説明 4. 意見交換	1. 昨年度事業の説明、取組2(ばい連絡協議会(ネットワーク会議)の強化とその重要性について 2. 取組2の教室の運営団体について 3. 取組3のシンポジウムの形式について
2	平成27年 3月11日 18:00～ 21:00	3	寺子屋シェイク ハンズ	米勢治子、土井佳彦、 川島紀之、小椋好和、 早瀬裕子、松本里美	1. 取組3のふりかえり 2. 今年度事業の振り返り 3. 次年度事業について	1. 2/14シンポジウムの評価と成果をまとめた。 2. 今年度全般的な事業＝特ネット絵ワークの強化について 3. 平成27年度文化庁申請事業について



5. 取組についての報告

○取組1：尾張北部日本語教育機関・外国人支援機関のネットワークづくり

- (1)

体制整備に向けた取組の目標

各日本語教室に「カリキュラム案」の理念を運営に生かせる体制を整備し、ネットワークのなかで、外国人支援のさらなる情報交換ができるようにし、日常的・継続的に協働できる仕組みを目指す。
- (2)

取組内容

26年度にネットワークを結んだ尾張北部地域の日本語教育機関当が、より柔軟で強固なネットワークを目指し、協議会を重ねる中で、行政や学校などにも呼びかけ、また地域組織や外国人キーパーソン、時にはゲストスピーカーも交えながら、意識を共有し、共同での日本語教育・多文化共生事業を展開できる仕組みに繋げていく。
- (3)

対象者

尾張北部地域の多文化共生に向け日本語教育に関わる組織や個人、地域の外国人キーパーソン
- (4)

参加者の総数

19 人

出身・国籍別内訳

中国	3人	インドネシア	人
韓国	人	タイ	人
ブラジル	1人	ペルー	2人
ベトナム	人	フィリピン	人
ネパール	人	日本	13人

- (5)

開催時間数(回数)

22.5時間 (全 9 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 7月1日 18:30～ 21:00	2時間 30分	寺子屋シェイク ハンズ	13人	日本人11人 ペルー1人 ブラジル1人	今年度事業 について	1. 自己・自団体紹介 2. 今年度事業の説明、目的の共有 3. 本事業の日本語教室の取り組み	進行役として 松本里美	事務局として 斎藤知子
2	平成26年 7月29日 18:30～ 21:00	2時間 30分	寺子屋シェイク ハンズ	13人	日本人12人 ペルー1人 中国 1人		1. 新参加者自己紹介 2. 本事業の日本語教室について 3. 各団体夏の事業、情報交換	進行役として 松本里美	事務局として
3	平成26年 9月3日 18:30～ 21:00	2時間 30分	寺子屋シェイク ハンズ	16人	日本人13人 ペルー1人 ブラジル1人 中国 1人	水井健二先生を お迎えして	1. 日本語教室の開催地域について 2. 水井健二氏の講演「本当の多文化共生とは」	進行役として 松本里美	事務局として 斎藤知子
4	平成26年 11月19日 18:30～ 21:00	2時間 30分	寺子屋シェイク ハンズ	15人	日本人12人 ペルー1人 ブラジル1人 中国 1人	各団体の課題	1. 本事業日本語教室の進捗 2. 各団体の悩み・課題(特に子ども支援について	進行役として 松本里美	事務局として 斎藤知子
5	平成26年 12月15日 18:30～ 21:00	2時間 30分	寺子屋シェイク	16人	日本人11人 ペルー1人 ブラジル1人 中国 3人		1. 日本語教室終了報告 2. シンポジウム開催について 3. 情報交換	進行役として 松本里美	事務局として 斎藤知子
6	平成27年 1月28日 18:30～ 21:00	2時間 30分	寺子屋シェイク	16人	日本人11人 ペルー1人 ブラジル1人 中国 3人	本事業シンポジウムについて	1. シンポジウムについて 2. 情報交換	進行役として 松本里美	事務局として 斎藤知子
7	平成27年 2月14日 9:00～ 11:30	2時間 30分	犬山国際観光セ	13人	日本人11人 中国1人 ペルー1人	シンポジウム について	1. シンポジウムについて 役割等最終確認	進行役として 松本里美	事務局として 斎藤知子
8	平成27年 3月17日 9:30～ 21:30	3時間	寺子屋シェイク	16人	日本人11人 ペルー1人 中国3人 ブラジル1人	今年度事業 の振り返り	1. シンポジウムの振り返り 2. 今年度事業全般のふりかえり 3. 来年度に事業にむけて	進行役として 松本里美	事務局として 斎藤知子

(7) 参加者の募集方法

尾張北部で活動している各教室または団体に直接参加依頼。外国人組織・キーパーソンについては各団体からの紹介。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)



第1回ネットワーク会議
自団体の紹介など



第3回
ゲストスピーカー(元鈴鹿市教育長 水井健二氏)を迎え、多文化共生についての講義を聞く



第6回
多文化共生シンポジウムについて話し合う

(9) 取組の目標の達成状況・成果

全参加団体がそれぞれの活動を詳細に発表し、情報の受発信が十分にできた(運営委員会・当協議会での振り返り)。一番の成果は、日本語教室を協働する実績ができたこと。同会議の継続更なる継続の合意に至った(予算措置に関わらず)こと。当法人の突発的事情により、回数が減少した点を反省。

(10) 改善点について

ゲストスピーカーによる研修会的な場合以外、テーマ設定をしていないので、より合理的な会議体とする為に、日本語教育機関のみの招集と全体協議の場と二元化する必要が、運営委員会で協議された。前者ではカリキュラム案の一層の活用と研修的時間も含め、後者では多文化共生・地域行事参画の情報受発信を中心に。行政や学校関係の参加が今年も少なかったので、呼びかけ・依頼の工夫が必要。

○取組2ー1:地域課題やライフステージに合わせて、必要な日本語を学ぼう！ 5シリーズ
Vol.1「災害に備え、自分の命を守ろう！」

- (1) 体制整備に向けた取組の目標:
- 取組当該地区の指導者が、カリキュラム案を活用し、場面想定等で工夫を凝らし、指導できるようになる。
また、同じライフステージを持つ外国人住民同士で仲間づくりや、共助の関係性、日本人とも顔の見える関係をつくる。
- (2) 取組内容:
- 外国人のライフステージに合わせて必要な日本語・地域課題を、日本人と触合いながら学べる教室としてシリーズ開催する。学びを生かす体験や地域行事参加できる企画にし、テーマ等はカリキュラム案に沿って工夫する。複数教室を渡り歩くこの地域の外国人の特徴を利用し、テーマ毎に各団体が協働し、担当制で臨む。VOL.1のテーマは「災害に備え、自分の命を守ろう」 扶桑町には比較的若い世代(独身)の技能実習生が多く、防災訓練等の地域行事への参加もほとんどない状態ので、まず、自身の身を守るべく、防災をテーマに選んだ。
- (3) 対象者 : 扶桑町を中心に、尾張北部地区に住む外国人住民と、日本人住民 。

- (4) 参加者の総数 44 人
出身・国籍別内訳

中国	12人	インドネシア	人
韓国	1人	タイ	人
ブラジル	人	ペルー	人
ベトナム	10人	フィリピン	人
ネパール	3人	日本	18人

- (5) 開催時間数(回数) 10 時間 (全 4 回)
(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 8月31日 13:00～ 15:00	2時間	扶桑町総合体育館	19人	中国6人 ベトナム2人 ネパール2人 日本9人	災害時に身を守る	1. 自己紹介と119番通報 2. 災害から自分を守る方法 3. 消防署員から、AEDの使い方の指導を受ける	小椋好和 田中 稔 松本里美 通訳:劉小紅	渡辺善夫
2	平成26年 9月7日 8:30～ 13:00	4時間	名古屋市防災センター	31人	中国12人 ベトナム10人 日本9人	防災センター見学	1. 防災センター見学 2. 震度6 地震体験 3. 家具の転倒防止について	小椋好和 田中 稔 松本里美 通訳:劉小紅	渡辺善夫
3	平成26年 9月14日 13:00～ 15:00	2時間	扶桑町中央公民館	28人	中国7人 ベトナム6人 韓国1人 ネパール2人 日本12人	学んだ事を話し、 災害ノートをつくろう	1. 消防署から学んだこと・日本語を書こう 2. 防災センターで学んだ事、日本語を書こう	小椋好和 田中 稔 松本里美 通訳:劉小紅	渡辺善夫
4	平成26年 9月28日 13:00～ 15:00	2時間	扶桑町中央公民館	39人	中国10人 ベトナム10人 ネパール3人 日本16人	簡単な防災食を作り、交流しよう。	1. 泥水で、ご飯を炊こう 2. 防災カードを書いて、身に着ける 3. 非常用持ち出し袋 4. 振り返り	小椋好和 田中 稔 松本里美 通訳:劉小紅	渡辺善夫

- (7) 参加者の募集方法

扶桑町、近隣の公共施設にちらしを設置。ネットワークのある各教室・支援機関を通じての募集。扶桑町広報誌掲載。(ちらし配布教室: 江南市国際交流協会、大口町サラダボウル、モモキッズ、小牧多文化コミュニケーション、扶桑町多文化共生センター、犬山国際交流協会)

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)



9/7
防災センターにて
消火器使用訓練



9/7
防災センターにて
計31名が参加



9/28
泥水の中でも炊けるハイゼックスを学習



9/28
非常小持ち出し袋の説明
と中身の点検

(9) 取組の目標の達成状況・成果

扶桑町で、このような教室の取り組みは初めてで、学習者・指導者双方にとって新鮮なものとなった。今後のカリキュラム案を活用した教室運営に向けての第一歩となった。

振り返りでの学習者の意見：

- ・このような教室は、初めてで、新しい事をたくさん知ることができた。
- ・この扶桑で、大きな地震が来ることを知り、訓練や用意すること、大切と思った。(中国)
- ・AEDや非常のごはんをつくるなど、本当にやる教室は、とてもいい(ベトナム)
- ・扶桑町では初めての試みだったが、独身者が多く、体験にとっても積極的に取り組む事ができ、多くの参加があり、大変好評だった。
- ・町の広報誌で募集した結果、地元住民も多数参加し、扶桑町在住の学習者は、日本人の知り合いができた事をとて喜んでくれた。
- ・防災カードは、外国人だけでなく「日本人にも必要」との意見などが出て、今後も一緒になった教室活動が望ましい。

(10) 改善点について

会場が分かれたため、周知が十分でなく、参加者が戸惑ったケースがあるので、できる限り同一会場での運営が望ましい。また、住民参加の多い場合、カリキュラム案をある程度、理解してもらう必要性を感じた。

取組2-2: 地域課題やライフステージに合わせて、必要な日本語を学ぼう！ 5シリーズ
Vol.2 「地域行事に参加し、料理で自国をアピールして、日本の友達をつくろう！」

(1) 体制整備に向けた取組の目標:

当該地区の指導者が、カリキュラム案を活用し、場面想定等で工夫を凝らせ、指導できるようになる。また、同じライフステージを持つ外国人同志で仲間づくりや共助の関係性、日本人とも顔の見える関係性をつくる。

(2) 取組内容:

外国人のライフステージに合わせて必要な日本語・地域課題を、日本人と触れながら、学べる教室としてシリーズ開催する。学びを生かす体験や地域行事参加できる企画にし、カリキュラム案に沿って工夫する。複数教室を渡り歩くこの地域の外国人の特徴を利用し、テーマ毎に各団体が協働し、担当制で臨む。
Vol.2のテーマは「地域行事に参加し、料理で自国をアピールして、日本の友達をつくろう！」日本で長く暮らしているが、同国人のコミュニティの中での付き合いがほとんどという、外国人住民が多く暮らす、犬山市で実施した。犬山市ロータリークラブから、地域行事参加の要請があり、日本語教室を初めて他団体と共催する事ができた。

(3) 対象者: 犬山市を中心に、尾張北部地区に住む外国人住民と犬山市の日本人住民。

(4) 参加者の総数 28人

出身・国籍別内訳

中国	5人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	人	ミャンマー 3人
ブラジル	2人	ペルー	6人	ボリビア 2人
ベトナム	4人	フィリピン	1人	
ネパール	人	日本	5人	

(5) 開催時間数(回数) 16 時間 (全 6 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 9月28日 10:00～ 12:00	2時間	楽田ふれあい センター	27人	中国6人 ブラジル3人 ペルー5人 ボリビア2人 ミャンマー3人 ベトナム4人 日本4人	イベントのイ メージ を共有し、料 理を 決めよう。	1. 自己紹介 2. 共催のロータリークラブの人に、 イベントの内容 趣旨を説明してもらい、みなで、イ メージを共 有する。 3. グループワークで、国別、どんな 料理を作るか話しあい、発表する。	安藤よし子 松本晃 斎藤輝幸 通訳: 森川パ トリシ 角田かずえ 劉小紅 地域講師: 原 正男	斎藤知子
2	平成26年 10月5日 13:00～ 15:00	2時間	楽田ふれあいセ	25人	中国4人 ブラジル2人 ペルー6人 ボリビア1人 ミャンマー3人 ベトナム4人 日本5人	イベントの具 体的な準備を しよう	1. 前回の発表の振り返り、料理の 確認 2. 国毎・料理ごとに、飾りつけや材 料・分量などの確認と役割分担を話 し合う。 3. 飾りつけや料理の名前を実際に 書く。	斎藤輝幸 柴田恵津子 斉藤千春 通訳: 角田か ずえ	斎藤知子
3	平成26年 10月12日 10:00～ 15:00	4時間	犬山市文化会館	19人	中国6人 ブラジル1人 ペルー5人 ボリビア1人 ミャンマー3人 ベトナム1人 日本2人	商工振興祭 「わいわい フェスタ 」に参加	1. ロータリーの担当者との自己紹介 2. ブースの飾りつけをする。 3. イベントの参加者とできるだけ、 話しながらに配る。 4. 2回目以降も別の参加者に配る。	斎藤輝幸 斉藤千春 柴田恵津子 通訳: 森川パ トリシ 角田かずえ	斎藤知子
4	平成26年 10月19日 10:00～ 12:00	2時間	犬山しみんてい	10人	中国3人 ペルー3人 ボリビア1人 フィリピン2 日本1人	振り返りと、 秋祭り 参加にむけて	1. 「ワイワイフェスタ」の反省をグ ループでして、発表する。 2. 秋祭りについて、説明をうける。 3. どんな形の参加がよいのか、を話し あう。 4. 参加者全員に、発表する。	斎藤輝幸 斉藤千春 柴田恵津子 通訳: 森川パ トリシ 角田かずえ	斎藤知子

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
5	平成26年 10月26日 10:00～ 15:00	4時間	犬山しみんて	13人	中国3人 ペルー3人 ボリビア1人 フィリピン2人 日本4人	秋の祭りに参加しよう	1. 出展の準備をする 2. 実際に料理の紹介と販売をする。 3. できるだけ多くの来場者と話しをする。 4. 後片付けをし、会場の担当者に報告をする。	斉藤千春 安藤よし子 松本晃 通訳: 森川パトリシア	斎藤知子
6	平成26年 11月2日 13:00～ 15:00	2時間	楽田ふれあいせ	19人	中国5人 ペルー3人 ボリビア1人 フィリピン2人 ブラジル2人 ミャンマ3人 日本3人	これからの地域行事参加を考える	1. 秋祭りの振り返りと、これまでの振り返り 2. 地域行事に参加して、どう感じたかを書き出す。 3・お茶を飲みながら、書いたものを見せ合い、意見交換をする。	安藤よし子 斉藤千春 松本晃	斎藤知子

- (7) 参加者の募集方法 犬山市・小牧市の外国人の集まる主な公共機関へ、ちらしを設置した。
(犬山国際観光センター、楽田ふれあいセンター、小牧市民会館 等)
ネットワークのある日本語教室に、直接、チラシを配布した。

- (8) 特徴的な活動風景(2～3回分)



9/28 イベントの内容を共有し、料理の内容を話し合



決まった料理を国別に書き記す



国毎に決めた料理・材料等を日本語で発表



10/12 商工振興祭
ワールドフーズフェスタ当日
犬山ロータリークラブと共に



来場者に料理を提供し、顔見知りになる



11/2 振り返り
多文化共生に必要な物は
笑顔 会話 国際理解
思いやりの心 等の意見
が出た

(9) 取組の目標の達成状況・成果

カリキュラム案を活用した場面想定が、地域行事参加において有意義に活用できた。教室運営のポイントの一つとして、指導者が学習できた。

外国人同士の自助グループが2つ組織され目的が達成された。日本人住民との関係は、ロータリークラブの役員を通して、今後の活動に期待が持てる。

〔振り返りでの学習者の意見〕

- ・犬山市でのこのような大きなイベントを知らなかったので、今まで参加しなかった。ロータリークラブの人と、また、やりたい。(中国)
- ・犬山の秋まつりは、とてもいい。中国の食べ物をたくさんアピールできたし、中国を好きな人が、たくさん話しかけてくれたから、とてもうれしい。(中国)
- ・「わいわいフェスタ」では、ロータリークラブの人と仲良くなったけれど、忙しくて他の人、話ができなかったの、残念だった(ペルー)
- ・どの料理も、すぐになくなって、人気でした(ブラジル)
- ・学習者は、地域行事にとっても興味を持ち、日本人(特にロータリーや会場のしみていの人)と、仲良くなり、今後もイベントに参加したり、会場に気軽に立ち寄ったり、が期待できそう。
- ・外国人同士も、調理する事や、料理の共通点等を通して、互いに少ない日本語を使いながら交流できていた。
- ・犬山ロータリークラブとつながることができ、「ぜひ、来年もいっしょに」との正式な意見を貰う事ができたのは、今後に向けて、とても有意義となった。
- ・今回は江南・扶桑町から、中国人が多く参加し、犬山在住の人ともつながり、料理や踊りで、中国を紹介する「愛知華人連合会」の結成に至った。
- ・また、犬山・小牧在住のペルー人のママたちも、「オラデル・ピケイト」と命名し、グループができた。今後、このグループからの情報発信が期待できる。

(10) 改善点について

- ・1タームの時間が、16時間と長かった為、終盤に、勤務の都合などで、出席できない人が多く、時間数の見直しが必要。
- ・秋という時期的な事もあり、イベントが「食べ物」に偏った傾向がある。もう少し、落ち着いたイベント参加も今後、検討したい。
- ・シェイクハnzの他事業の事情もあり、教室が週末に集中してしまうので、「週末に勤務のある人は、参加できない」との声も聞こえた。さまざまな角度の検討が必要。

○取組2-3: 地域課題やライフステージに合わせて、必要な日本語を、学ぼう!

Vol. 3 「交通ルールを守り、安全に暮らそう!」

(1) 体制整備に向けた取組の目標

当該地区の指導者が、カリキュラム案を活用し、場面想定等で工夫を凝らし、指導できるようになる。同じライフステージを持つ外国人同士で仲間づくりや、共助の関係性を持ち、日本人とも顔の見える関係性をつくる。

犬山近郊に住む比較的小さい家庭や、自転車愛用者に、ルールをしっかり知ってもらう為に、自転車安全教室を主宰、工夫ができるようにする。

(2) 取組内容

外国人のライフステージに合わせて必要な日本語・地域課題を日本人と触れ合いながら学べる教室として、シリーズ開催する。学びを生かす体験や地域行事参加ができる企画にし、カリキュラム案に沿って工夫する。複数教室を渡り歩くこの地域の特徴を利用して、テーマ毎に各団体が協働し、担当制で臨む。

Vol. 3のテーマは、「交通ルールを守り、安全に暮らそう!」犬山市近郊に住む比較的小さい家庭や、自転車愛用者に、ルールをしっかり知ってもらい、安全な暮らしをしてほしいと、自転車安全教室を含む日本語教室を「犬山警察署と、地元自転車愛好家グループの協力を得て、開催する。

(3) 対象者 : 犬山市・近郊に住む外国人と日本人住民

(4) 参加者の総数 34 人

出身・国籍別内訳				
中国	6人	インドネシア	人	ミャンマー 3人 ロシア1人
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	3人	ペルー	11人	
ベトナム	4人	フィリピン	4人	
ネパール		日本	12人	

(5) 開催時間数(回数) 10 時間 (全 3 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 10月5日 10:00～ 15:00	4時間	楽田ふれしセン ター	34人	ブラジル3人 ベトナム4人 ペルー11人 フィピン4人 ミャン3人 ロシア1人 日本12人	親子や家族で 参加 できる自転車 安全 教室	1. 自転にを安全に乗っています か？ 2. 自転車新しいルールを知ろう！ 3. 自転車の整備していますか？ 4. 自転車のグッズ紹介 5. マップ作り	安藤よし子 松本晃 佐藤直孝 通訳:森川パ トリシア 地域講師:西 尾晴孝	吉田正克 協力:犬山警察署
2	平成26年 10月12日 10:00～ 15:00	4時間	犬山市民文化 会館 その近郊	13人	ペルー6人 ロシア1人 ベトナム3人 日本3人	自転車散歩 に 参加しよう	1. ルールを守って安全に、自転車 散歩を楽しむ 2. 犬山のきれいなところを見つけよう	安藤よし子 松本晃 佐藤直孝	吉田正克 協力:犬山ロータリー クラブ 楽田コミュニティ 推進協議会
3	平成26年 10月19日 10:00～ 12:00	2時間	楽田ふれあいセ	10人	ペルー6人 ロシア1人 ベトナム3人	振り返りと マップづく り	1. ルールについて、覚えた事を確認 する。 2. 自転車散歩の振り返り 3. 実際に走ったマップを完成させ る。	安藤よし子 松本晃 佐藤直孝 通訳:森川パ トリシア	吉田正克

(7) 参加者の募集方法 犬山市の外国人の出入りの多い公共施設にちらしを設置。
ネットワークのある日本語教室・機関に直接配布した。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)



10/5 自転車安全教室
犬山警察署の協力で



次回体験する「自転車散歩」の
行事でのコースマップを作る



10/12 地域行事「自
転車散歩」に参加した
メンバーと



10/19 振り返りで
覚えた交通ルールを
確認。写真を見ながら
マップを完成させる。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

日本人住民12人の参加を得て、しかも昨年に続き犬山警察署の協力が得られ、地域で共に学ぶ教室としての目的が達成された。顔見知りの住民と共に学ぶことで、互いの関係性が進むことが期待される。指導者が、カリキュラム案教材集からヒントを得、自転車マップ作り等のプログラムを考案できた。

〔振り返りから〕

- ・自転車で通行するルールがわかっていなかった(ペルー)
- ・今まで、通っていた方向が違っていたので、正しいルールで、自転車に乗らなければならないと思った。(中国)
- ・傘をさしたり電話しながら、自転車に乗ると、罰金になるを、初めて知った。(ベトナム)
- ・家族も新しい自転車ルールを知らないので、家で話をしなくては(日本)
- ・普段、車で移動する事の多いペルー人が、いつも利用しているベトナム人も、ルールをよく知らず、子ども達にも伝わっていない事がわかり、注意を促す事ができた。
- ・昨年の「防犯」の日本語教室が大人気だった事もあり、参加者が多く、犬山署への信頼感も高いので、犯罪等の話も聞かせてもらい、交通安全のみならず防犯の意識も上がった感があった。
- ・この教室でも、ロータリークラブと、地元組織の楽田コミュニティ推進協議会の協力が得られた。

(10) 改善点について

- ・安全教室のイベント参加数が多いのに比べ、体験行事の参加者が少なく、体験のハードルが、高かったのでは(連絡協議会での反省)
- ・あらかじめ警察官と、言葉遣いの打ち合わせをしていたが、自転車の部位名称や、側帯、歩道、軽車両など、外国人にはハードルの高い言葉が多いので、より丁寧な打ち合わせが必要だった。(運営委員会)指導者等が、フォローするのが大変だった。

○取組2-4:地域課題やライフステージに合わせて、必要な日本語を学ぼう！
Vol.4「日本語を使って 自分の国をアピール、地域の人と交流しよう！」

(1) 体制整備に向けた取組の目標

当該地区の指導者がカリキュラム案を活用し、場面想定等で工夫を凝らせ、指導できるようになる。同じライフステージを持つ外国人同士で仲間づくりや、共助の関係性、日本人とも顔の見える関係性をつくる。

(2) 取組内容

外国人のライフステージに合わせて必要な日本語・地域課題を日本人と触れながら、学べる教室として、シリーズ開催する。学びを生かす体験や、地域行事参加できる企画にし、カリキュラム案に沿って工夫する。複数教室を渡り歩く、この地域の外国人の特徴を利用しテーマ毎に各団体が協働し、担当制で臨む。
Vol.4は「日本語を使って自分の国をアピール 地域の人と交流しよう！」江南市の教室では、親子で学ぶ姿勢が多く、学校や児童センターなどと、連携した取り組みと、なった。

(3) 対象者 江南市その近隣にすむ外国人親子や、地域住民

(4) 参加者の総数 30人

出身・国籍別内訳				
中国	2人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	1人	ミャンマー2人、 パキスタン1人 モンゴル1人
ブラジル	3人	ペルー	2人	
ベトナム	2人	フィリピン	3人	
ネパール	人	日本	13人	

(5) 開催時間数(回数) 15 時間 (全 8 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 10月17日 13:00～ 14:30	1.5時間	ふくらの家	18人	中国2人 ブラジル3人 ベトナム2人 タイ1人 ペルー2人 フィリピン3 ミャンマー2人 パキスタン1 日本人2人	多文化交流 会の 準備をしよう	1. 自己紹介。 2. 自分の国の紹介。 3. どんなイメージでやるか考え、 話合う。	早瀬裕子 吉田有美 松本里美 通訳:森川パ トリシア	佐野 宴
2	平成26年 10月20日 13:00～ 14:30	1.5時間	ふくらの家	14人	中国1人 ブラジル2人 ベトナム2人 ペルー2人 フィリピン3 ミャンマー2人 日本2人	多文化交流 会の 準備をしよう	1. 自己紹介の練習 2. 自分の国の紹介練習 3. 名刺を自分でつくろう	早瀬裕子 吉田有美 松本里美	佐野 宴
3	平成26年 10月22日 9:00～ 12:00	3時間	布袋北小学校	29人	中国2人 ブラジル3人 ベトナム2人 タイ1人 ペルー2人 フィリピン3 ミャンマー2人 パキスタン1 日本人13人	多文化交流 会 「自分の国を アピールしよう」	1. 自分の国の言葉であいさつ 2. 名刺と日本語で自己紹介 3. 自分の国のアピールを日本語で 4. 自分の国の遊びの紹介	早瀬裕子 吉田有美 松本里美 通訳:森川パ トリシア	佐野 宴
4	平成26年 10月24日 13:00～ 14:30	1.5時間	ふくらの家	9人	モンゴル1人 ペルー2人 ベトナム2人 フィリピン1 パキスタン1 タイ1人 日本1人	多文化交流 会の 振り返り	1. 当日のDVDを見る 2. 自分の日本語についての感想を いう。 3. 交流会をやった感想を書いて、発 表する	早瀬裕子 吉田有美 松本里美	佐野 宴

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
5	平成26年 11月7日 13:00～ 14:30	1.5時間	ふくらの家	11人	モンゴル1人 ブラジル1人 ペルー2人 ベトナム2人 フィリピン1人 パキスタン1人 日本2人	「ちょっと留学」にむけて	1. ちょっと留学って、なに？ビデオを見て、イメージ共有する 2. 話す事、聞くことを考える。 3. 話す事を書いてみよう。 4. 聞く事を書いてみよう。	早瀬裕子 吉田有美 松本里美	佐野 宴
6	平成26年 11月14日 13:00～ 14:30	1.5時間	ふくらの家	11人	モンゴル1人 ブラジル1人 ペルー1人 ベトナム2人 フィリピン2人 パキスタン1人 タイ1人 日本2人	「ちょっと留学」にむけて	1. 名刺をつくろう 2. 挨拶カードをつくろう 3. 自己紹介、プレゼンの練習	早瀬裕子 吉田有美 松本里美	佐野 宴
7	平成26年 11月15日 9:00～ 12:00	3時間	藤里国際ルーム	21人	モンゴル1人 ブラジル3人 ペルー3人 ベトナム2人 フィリピン3人 タイ1人 ミャンマ2人 パキスタン1人 日本5人	ちょっと留学	1名刺を使って、自己紹介 2. 自分の国のアピール 3. 日本のことで、地域の人に聞きたいこと 4. 交流しよう	早瀬裕子 吉田有美 松本里美 通訳：森川パトリシア	佐野 宴
8	平成26年 11月20日 ふくらの家	1.5時間	ふくらの家	17人	モンゴル1人 ブラジル3人 ペルー3人 ベトナム2人 フィリピン3人 タイ1人 ミャンマ2人 パキスタン1人 日本1人	ちょっと留学の振り返り	1. 自分の紹介は、どうだった？ 2. 聞いたこと、聞かれたことを着てみよう 3. 地域の人と話すとき、何が必要？ 気を付けることは？	早瀬裕子 吉田有美 松本里美	佐野 宴

(7) 参加者の募集方法 江南市及び近郊の外国人の出入りする公共施設等にちらしを設置。ネットワークのある日本語教室には、直接募集をした。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)



10/17 どんなイメージで紹介するか話し合う



11/15 ちょっと留学で地域の人と交流



入れ代わり立ち代わり、地域の人と話をして自国をアピール、顔見知りになる



順番に記念撮影

(9) 取組の目標の達成状況・成果

「自分の国の事を話したい」という、動機がはっきりしていたので、だれもが、馴染みやすかった。(振り返りシートからはじめは、たどたどしい「です、ます調」ばかりだったが、繰り返し、練習・発表することで、互いにアドバイスしあい、固苦しくない日本語になっていった。
体験を通して、より自然に使える日本語になりつつある。話す事が楽しくなり、「もっと多くの人と交流したい」との感想が多かった。

(10) 改善点について

プレゼンという形が多かったが、双方向に言葉のキャッチボールができる環境が、体験のなかに、もっと含まれると、良かった。

○取組2-5:地域課題やライフステージに合わせて、必要な日本語を学ぼう！
Vol.5 日本でお店を開いたり、サービス業で働くための教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

当該地区の指導者がカリキュラム案を活用し、場面想定等で工夫を凝らせ、指導できるようになる。同じライフステージ持つ外国人同士で仲間づくりや、共助の関係性、日本人とも顔の見える関係性をつくる。

(2) 取組内容

外国人のライフステージに合わせて必要な日本語・地域課題を、日本人と触合いながら学べる教室としてシリーズ開催する。学びを生かす体験や、地域行事参加できる企画にし、テーマ等はカリキュラム案に沿って工夫する。複数教室を渡り歩くこの地域の外国人の特徴を利用し、テーマ毎に各団体が協働し、担当制で臨む。
Vol.5は「日本でお店を開いたり、サービス業で働くための教室」長く日本に住み、子育ても一段落、そろそろ自分の仕事を見直したい、サービス業についてみたいと願う人も多く、そのために必要な日本語と、体験を積む機会をつくるもの。

(3) 対象者：犬山市や近郊に住む外国人

(4) 参加者の総数 17 人

出身・国籍別内訳				
中国	3人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	人	ボリビア1人
ブラジル	2人	ペルー	6人	エクアドル1人
ベトナム	人	フィリピン	2人	ミャンマ2人
ネパール	人	日本	人	

(5) 開催時間数(回数) 15 時間 (全 5 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 11月9日 10:00～ 12:00	2時間	楽田ふれあい センター	14人	ブラジル2人 ペルー6人 フィリピン2 ボリビア1人 エクアドル1人 ミャンマ2人	夢を語ろう！ どんな仕事が したい？	1. 将来、どんな仕事がしたいか？考 える。 2. それぞれの仕事に、必要なこと、 必要な物を 考える。 3. どうして、その仕事がしたいか？ 4. 1～4、までを発表する。	松本里美 斎藤輝幸 松本晃	斎藤知子
2	平成26年 11月16日 11月9日 10:00～ 12:00	2時間	楽田ふれあい センター	10人	ブラジル1人 ペルー5人 フィリピン2 ボリビア1人 エクアドル1人 中国3人	接客とことば の違い	1. 将来、どんな仕事がしたいか、何 が必要か？前回の振り返り 2. 物販・飲食業、希望に合わせて、 接客する言葉を覚える。 3. 各売り場・場面別に、ロールプレ イ 4. 1～3、までの感想を言い合う。	松本里美 斎藤輝幸 松本晃	斎藤知子
3	平成26年 11月23日 10:00～ 15:00	4時間	犬山城下町の お店	12人	ペルー5人 フィリピン2人 ボリビア1人 エクアドル1人 中国3人	体験しよう	1. 希望に合わせて、実際の商店 で、販売体験、調理・接客体験をす る。 (各店舗の店主や従業員に協力して 貰い、講師を務めていただいた) 2. 反省・感想を振り返りシートを記 入。3. 地域体験講師からも、それぞ れにコメントを書いて貰う。	松本里美 斎藤輝幸 松本晃 地域体験講 師： 松岡由利子 水谷美香	斎藤知子
4	平成26年 11月30日 10:00～ 15:00	4時間	犬山の城下町 の 商店 街	9人	ペルー3人 フィリピン2人 エクアドル1 ボリビア1人 中国2人	商店街を見て 回ろう	1. 前回の振り返りと、商店街の説明 2. 城下町の特長を地域講師から聞 く。 3. 実際に商店街に出て、好きな店 や気になる店を見つけ、写真をとっ たり、記録に残す。 4. 3の理由や立ち立地を皆で共有し、 話し合う。	松本里美 斎藤輝幸 松本晃 地域講師：高 木茂子	斎藤知子

5	平成26年 12月21日 10:00～ 13:00	3時間	犬山しんてい	9人	ペルー3人 フィリピン2人 エクアドル1人 ボリビア1人 中国1人	好きなお店、 やってみたい 仕事	1. 前回までの振り返りをし、もう一 度、どんな仕事がしたいか？考え る。 2. それぞれの仕事に、必要なこと、 必要な物を考える。 3. 将来、自分の夢を実現するた めに、 これから、自分ができる事を考える。	松本里美 斎藤輝幸 松本晃	斎藤知子
---	------------------------------------	-----	--------	----	---	------------------------	--	---------------------	------

(7) 参加者の募集方法

犬山市を中心に、外国人の出入りが多い公共施設(楽田ふれあいセンター・小牧市味岡市民センターなど)に、ちらし設置。ネットワークのある日本語教室に、チラシ配布そ、直接募集した。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)



11/9 どんな仕事に就きたい？
飲食業・販売業等に分かれ
必要な物、イメージを話し合
う。



11/16 接客の作法や
言葉使いなどロールプ
レイ



11/30 雑貨店で販売体験



飲食店での体験



12/14 商店街を歩いて気
になる店をチェックし検討

(9) 取組の目標の達成状況・成果

民間の事業者の協力を得られた日本語教室となり、今後に向けて、様々な日本人住民と協働できる可能性が考えられるようになった。場面想定でも工夫ができ、参加者からは好評だった。

〔振り返りシートから〕

- ・とても楽しい日本語教室だった。いつか、自分も店をやりたい。(ペルー)
- ・お料理が大好きなので、お店をやりたいが、保健所の事をもっと勉強したい。(ボリビア)
- ・夢のために、早くお金を貯めたい(エクアドル)
- ・「～になさいますか」「～でございます」ことばが、とてもむづかしい。(フィリピン)
- ・学習者は、敬語や謙譲語などに苦労していたが、実際は笑顔と誠実さで、カバーできる事もわかって、とても楽しんでいた。店の人も仲良くなり、実際に出店したり、転職ができなくても「夢を持って勉強するのは、自身の生涯学習・ステップアップになる」と言ったペルー人の言葉が印象的だった。
- ・ネットワーク会議でも、このような教室ができるのは、民間の強みとの意見が出た。

(10) 改善点について

- ・参加者がやや少なかったのは、お店体験など、ハードルが高いと感じる人も多いのかも？
- ・今回は、会計や帳簿の学習ができなかった。
- ・周りのニーズに即し、企画したが、数の上では少なく、今後検証が必要。

取組3 多文化共生シンポジウム

～生活に根ざした日本語教育の場とネットワークづくり～

(1) 体制整備に向けた取組の目標

本事業の反省・評価を行う事で、連携した日本語教育団体が、地域特性を生かしながら、継続的な協働（尾張北地域での自主的な啓もう活動や日本語教室開催）に踏み出す環境をつくる。

また、行政にたいして、協働・連携を奨励する多文化共生施策への提案。

(3) 対象者 尾張北部地域の地域住民と外国人住民、行政関係者

(4) 参加者の総数 87 人

出身・国籍別内訳

中国	4人	インドネシア	人
韓国	人	タイ	人
ブラジル	人	ペルー	3人
ベトナム	人	フィリピン	人
ネパール	人	日本	80人

(5) 開催時間数(回数) 3.5 時間 (全 1 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名
1	平成27年 2月4日 13:30～ 17:00	3.5時間	犬山国際観光 センター フロイ デ	87人	中国4人 ペルー3人	連携による多 文化共生・日 本語教育	「多文化共生」の基調講演と、26年 度事業検証の 為のbb系団体によるシンポジウ ム。愛知県への 提案、要望の提出。	全体コーディネーター(進行): 土井佳彦 基調講演・シンポジウムコーディネ ーター: 結城 恵 パネラー: 小椋好和 早瀬裕子 松本里美 通訳: 森川バトリシア

(7) 参加者の募集方法 犬山市広報誌掲載、愛知県国際交流協会・日本語学習支援基金メーリングリスト、尾北ホームニュース掲載、各国際交流協会へちらし設置、ネットワークのある日本語教室へ直接募集、各市町多文化共生担当部局へ通知 等

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)



2/14
78人の参加者を得て、開会あいさつ



「人と人の違いは？
それを地域で活かすには」



教室実3施団体による事例発表
扶桑町(小椋氏) 江南市(早瀬氏)
犬山市(松本)



愛知県多文化共生推進室への提言
「これからの尾張北部の日本語教育・多
文化共生ネットワークの充実のために」
多文化共生推進室室長補佐 神谷氏

(9) 取組の目標の達成状況・成果

多文化共生の重要性を参加者にアピールできたシンポジウムとなった。

協働した各地域の教室指導者が、それぞれの報告を聞く事で、カリキュラム案を活用した運営にシフトする機会になった。

各市町村の担当者が参加し、愛知県多文化共生推進室への提言を聞いたことで、次年度からの「行政との協働」

〔アンケートより〕

- ・多文化共生は外国人の為だけではなく、皆が暮らしやすい日本の社会づくりだと聞き、目からウロコの思いだった(基調講演、団体関係者)
- ・講演者の常に自分に向き合う真摯な態度に感動した(基調講演、一般)
- ・「多文化共生」がよくわからなかったが今回参加し、身近かなものになった(全体、一般)
- ・自分が参加している日本語教室も、多文化共生にシフトしたいが、旧態としているので、どうしたらいいか(協働団体シンポジウム、日本語教育関係者)
- ・犬山の取組は体験型がとて多く、興味深い(協働団体シンポ、日本語教育関係者)
- ・ひとりでは何もできないかも知れないが、「多文化共生における連携を進めていきたい」(全体、行政関係者)
- ・このような取組があるのを初めて知った。アンテナが低い(全体、行政関係者)
- ・むづかしい事は分らないが、「日本人同士でも、目と目を合わせて挨拶、外国人だって同じだと思う。みながこういう気持ちで向き合えたら、やさしい世の中になっていく」素晴らしい催しでした(全体、一般)
- ・素晴らしい会でした。勉強させてもらいました。来年度以降も、「多文化共生事業」、引き続いて協働させて頂きたいです。(ロータリークラブ関係者)

〔運営委員会より〕

- ・日本語教育関係者、国際交流関係、市民活動関係等、行政はやや少なかったが、多くの分野から、多くの参加があった。
- ・愛知県多文化共生推進室に対して、提言を出すことができたのは、大きな評価。
- ・シンポジウムで、今年度事業の報告・反省評価が、関わった団体・人、全体ででき、結果も、共有できたのでは。

〔連絡協議会(ネットワーク会議)より〕

- ・「多文化共生」は、人が集まらないと思っていたが、とにかく、多くの方に聞いてもらえてうれしかった。
- ・自分たちの活動を広く一般の方に知ってもらうとても良い機会だった。
- ・つくる側として、とても刺激になった。
- ・自助団体を立ち上げた中国人の参加があり、とてもよかった。
- ・日程の関係で、多くの学校の学芸会と重なってしまい、学校関係者や外国人の参加が少なかったのが、とても残念だった。

(10) 改善点について

- ・年度末の開催時期なので、狭い会場しか押さえられず、会場レイアウトや参加者対応がしきれなかったため、会場選択を早期にすることが必要
- ・学校行事とも重なってしまったため、学校関係者の参加が少なくなってしまった。今後は開催時期についても検討する。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

外国人散在地域である尾張北部地域の日本語教育に関わる団体が、昨年度より一層強く柔軟性のあるネットワークを組んで日本語教室の拡充を目指す。
多様なライフステージに合わせた日本語教室の場、地域問題の解決の場など協働し、真の多文化共生地域づくりを進める。

(2) 事業目的の達成状況

- ①連絡協議会(ネットワーク会議)での情報交換・共有が進み、各団体が実施した多文化共生事業の内容の充実、参加者の増加が図られ、この会議が、各行事の振り返り・検証の場としても機能した。
- ②「カリキュラム案」を活用した地域日本語教室を協働(2市1町)開催できたことが、この事業で一番の成果であり、各団体・日本語指導者が地域の日本語教室のあり方を考える良い機会になった。今後この地域での「生活者としての外国人のための教室」の継続が期待できる。
- ③ ①②での成果等を直接、多くの市民・団体等に発信できたことや新聞での報道で、生活者としての外国人の為の地域日本語教室の存在が、クローズアップされ、広く多文化共生の啓蒙につながった。
- ④全ての行事を通して様々な団体からの協力・連携があった
 - ☆楽田地区コミュニティ推進協議会
一部の地域日本語教室の共催・協力(取組2, 2-3)により、会場費の一部減免、地域行事参加への申し込み手続き
 - ☆犬山ロータリークラブ
一部の日本語教室(取組2-3)において共催し、地域行事参加時の予算提供
 - ☆丹羽消防署
日本語教室での協力(防災教室)
 - ☆江南市教育委員会
国際ルームなごでの、教室開催に協力

(3) 地域における事業の効果、成果

本事業の各取組を通して、行政や住民への広報やアピールにより、行政の担当課や関連部署の参加が増え、この地域における多文化共生の意識が徐々にではあるが高くなってきた。特に公開での成果発表(シンポジウム)には、市長や議員の参加もあり、次年度の多文化共生施策の広がり期待できる。
連絡協議会(NW会議)を中心とするネットワークが、「生活者としての外国人」の為の地域日本語教室の拡充に欠かせないものとなった。
多文化共生・日本語教育団体のみならず、地域のロータリークラブ等、他分野の団体ともネットワークが構築されつつある。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

尾張北部地域3市2町(犬山市・江南市・小牧市・扶桑町・大口町)を中心としたネットワークによる地域日本語教育の拡充を目指したが、現状は情報共有は達せられたが、日本語教室は、2市1町の協働開催となった。

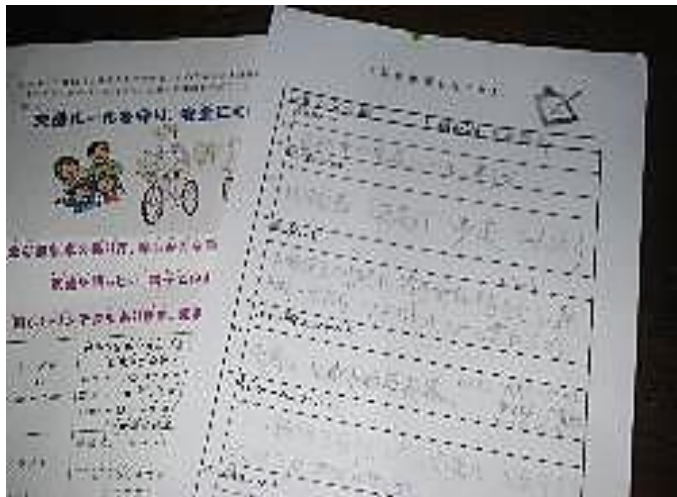
ii 今後の課題

3市2町での「生活者としての外国人のための日本語教育」の協働を目指す。(特に集住地区である小牧市と)
多文化共生だけでなく、他分野団体や行政とも、より、協働体制をつくっていく。

iii 今後の活動予定

予算措置の有無に関わらず、連絡協議会を定期的に継続し、ネットワークの充実を図り、この地域での日本語教育を充実する。
できるだけ多くの分野の団体と協働し、啓蒙活動を続けていく。(犬山ロータリークラブとは次年度事業の協働が決定した)

(5) その他参考資料



日本語教室の振り返りシート

1120 文化庁日本語教育事業「ライフステージに合わせて、必要な日本語を学ぼう」
Vol.1 「災害に備え、命を守ろう！」 準備シート

4 期目 10/5 (日) 13:00～15:00 扶桑町中央公民館

教室のねらい	防災食をつくる事で、身近に、災害に備える工夫をする。 ハイゼックスで、実際に米が炊けるようになる。
内容	①導入／ライフラインがない中での食事の確保について、話し、想像を促す。(約 10 分) ②ハイゼックスの方法を伝えて、一緒にやってみる。 (炊き終わる迄、約 40 分) ③米が炊ける時間を利用して、緊急時のカードを作成する (時間が余ったら、非常用持ち出し袋の話) ④炊きあがった米を試食(海苔、ふりかけ等)。(約 30 分) ⑤食べた感想を話したり、他の工夫にも触れる ⑥非常用持ち出し袋を紹介し、備蓄を促める。 ⑦振り返りシートに記入
用意する物	ハイゼックス袋、輪ゴム、ふりかけ、海苔、鍋、卓上コンロ、 割り箸、持ち出し袋 等 緊急時のカード(教材例集より)、筆記用具
指導者 追助者 協力者	日本語指導／小椋、通訳者／ 補助者／松本、斎藤
利用する グッズ	
その他	写真撮影

日本語教室の準備シート

2015.2.14 (Sat) 13:30～17:00
多文化共生シンポジウム
～生活に根ざした日本語教育の場とネットワークづくり～
Inuyama, Komaki, Konan, Fuso, Oguchi

主催 NPO法人シェイクハnds
共催：江南市国際交流協会、扶桑町多文化共生センター「サダボール」
後援：犬山国際観光センター「フロイデ」、犬山町、小牧市、江南市、扶桑町、大田町、
+ 青森、佐賀、いわて、秋田

定員100名
参加無料
申し込み受付中
会場 犬山国際観光センター「フロイデ」
2階 研修室 1,2

このシンポジウムは、文化庁委嘱「平成25年度『生活者としての外国人』のための日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラム(B)」の一環で行っています。

多文化共生シンポジウムチラシ(おもて)

～スケジュール～

13:00 受付
13:30 開会あいさつ
13:40 第1部 基調講演
結城 恵氏 (群馬大学)
14:30 第2部 事業実施報告
尾張北部地域の外国人状況と各地域の取組み
松本里美氏 (NPO法人シェイクハnds)
早瀬裕子氏 (江南国際交流協会 ふくらの家)
小椋好和氏 (扶桑町多文化共生センター)
安藤よし子氏 (NPO法人シェイクハnds)
質疑応答
16:15 第3部 宣言・提言～今後に向けて～
これからの尾張北部の日本語教育・多文化共生
ネットワークの充実のために(仮)
松本里美氏 (NPO法人シェイクハnds)
愛知県多文化共生推進室(予定)
16:25 閉会あいさつ
16:30 交流タイム・アンケート
17:00 終了

問合せ・申込み
NPO法人シェイクハnds
電話：0568-61-0971
FAX：0568-61-8108
Email: info@shake-hands.jp

多文化共生シンポジウムチラシ(うら)

愛知県多文化共生推進室への宣言・要望

愛知県地域振興部国際課多文化共生推進室 御中

私ども、尾張北部で地域日本語教育に携わる団体は、平成25年度より、多文化共生社会づくりに貢献すべく、ネットワークづくりに取り組んで参りました。これまで18回にわたり、小牧市・江南市・大口町・扶桑町・大山市の各団体が集まり、各日本語教室における状況や課題を共有し、市域を超えて共に地域をつくっていききたいとの思いのもとに、「生活者としての外国人」住民に寄り添った日本語教室を運営して参りました。

愛知県が平成26年2月にとりまとめられた『愛知県 多文化共生社会に向けた地域における日本語教育推進のあり方』の中でも、日本語教室の役割の一つに「活動内容を改めて見直す契機としたり新しい指導方法や技術等のノウハウや情報を共有するために、そのネットワークをさらに広げ、活発な活動を展開することが期待され」とあります。私たちはこれに賛同し、今後もこのネットワークを柔軟で、より強固なものにし、今まで以上に人や地域に根ざした日本語教育を行っていく事を、ここに宣言いたします。

しかし、地域の日本語教育は、市民活動団体だけで行うべきものではなく、また日本語教育に携わる者だけが取り組むものでもないと考えます。先の『あり方』の中で、愛知県の役割として「県内の市町村、国際交流協会、日本語教室、日本語教育機関、日本語教師 養成機関、企業(経済団体)、県民などの関係主体が効果的に連携・協働できるよう、県内の日本語教育の推進体制を整え、全県をあげた取組を行」うとあります。つきましては、愛知県におかれましても、私どものようなネットワークづくりをご推奨いただき、今後のネットワーク会議等にご出席いただき、また当該地域の市町の担当課に対しましても、同会議や教室活動への積極的に参加を促していただく等、ご理解とご協力を賜りたいと存じます。これらを通じて、これまで以上に、外国人県民はもとより、市民活動団体や市町自治体の声を今後の多文化共生施策に反映していただけるよう、お願い申し上げます。

日本人も外国人も、同じ地域に暮らす県民が、共に支え合う地域づくりを目指して、行政や市民活動団体等が連携・協働し、真の多文化共生社会づくりを目指していきましょう。

愛知県多文化共生推進室への提言(シンポジウムでの配布資料)(表)

平成 27 年 2 月 14 日

尾張北部日本語教育ネットワーク 世話人

特定非営利活動法人 シェイクハンズ

代表理事 松本 里美

<構成団体>*五十音順

江南市国際交流協会ふくらの家

代表 早瀬 裕子

小牧多文化社会コミュニケーション計画 (プロジェクト)

代表 戸狩 順子

特定非営利活動法人 シェイクハンズ

代表理事 松本 里美

サラダボール CO.

代表 前田 みどり

扶桑町多文化共生センター

代表 小椋 好和

